

市営建設関連業務委託契約に係る最低制限価格事務取扱要領

(令和3年6月16日市長決裁)

(趣旨)

第1 この要領は、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の10第2項(第167条の13において準用する場合を含む。)の規定により、市営建設関連業務委託(以下「建設関連業務委託」という。)に係る契約について最低制限価格を定める際に必要な事項を定めるものとする。

(最低制限価格を定める契約)

第2 最低制限価格を定める契約は、競争入札に付する設計価格が50万円以上(消費税及び地方消費税を含む。)の建設関連業務委託とする。

(最低制限価格の算定方法)

第3 最低制限価格は、別表第1に掲げるそれぞれの業種区分ごとに、設計額算出の基礎となった同表1から4までに掲げる額の合計額(1,000円未満切捨て)を基に、宮古市財務規則(平成17年規則第66号)第2条第10号に規定する契約担当者が定める額とする。

(1) 測量及び地質調査業務以外に係る契約については、その額が予定価格の10分の8を

超える場合にあつては10分の8と、10分の6に満たない場合にあつては10分の6とするものとし、測量に係る契約については、その額が予定価格の10分の8.2を超える場合にあつては10分の8.2と、10分の6に満たない場合にあつては10分の6とするものとし、地質調査業務に係る契約については、その額が予定価格の10分の8.5を超える場合にあつては10分の8.5と、3分の2に満たない場合にあつては3分の2とするものとする。(下限額にあつては、1,000円未満切上げ、上限額にあつては、1,000円未満切捨てとする。)

(2) 当該建設関連業務委託の設計価格が、複数の業種区分ごとに算出された業務価格の合計額となっている場合は、別表の業種区分の欄に掲げる建設関連業務委託の種類ごとに前号の方法で算出された額の合計額を基に、契約担当者が定めるものとする。

(入札参加者への周知)

第4 契約担当者は、前条の規定による最低制限価格を設定する場合には、その旨を当該入札に参加させようとする者に周知しなければならない。

(最低制限価格による判定)

第5 入札執行者は、開札の結果、第3条の規定による最低制限価格未満の価格により入札した者にあつては、失格と判定するものとする。この場合において、最低制限価格未満の価格により入札した者は、再度の入札には参加できない。

2 入札執行者は、予定価格の制限の範囲内で、かつ、最低制限価格以上の価格で入札した者のうち、最も低い価格の者を落札者と決定するものとする。

附 則

この要領は、令和3年7月1日以降に入札通知する契約から適用する。

別表 1

業種区分	1	2	3	4
測量業務	直接測量費の額	測量調査費の額	諸経費の額に10分の4.8を乗じて得た額	—
建築関係建設コンサルタント業務	直接人件費の額	特別経費の額	技術料等経費の額に10分の6を乗じて得た額	諸経費の額に10分の6を乗じて得た額
土木関係建設コンサルタント業務	直接人件費の額	直接経費の額	その他原価の額に10分の9を乗じて得た額	一般管理費等の額に10分の4.8を乗じて得た額
地質調査業務	直接調査費の額	間接調査費の額に10分の9を乗じて得た額	諸経費の額に10分の4.8を乗じて得た額	解析等調査業務費の額に10分の8.0を乗じて得た額
補償関係コンサルタント業務	直接人件費の額	直接経費の額	その他原価の額に10分の9を乗じて得た額	一般管理費等の額に10分の4.5を乗じて得た額